

市長 地域の皆さんにとって、とても心強い存在ですね。また、来院される方々の目線に立ち、病院内でもいろいろと工夫をされているとお聞きしています。

竹村 はい。その一つとして、診察室内に家族の皆さんに利用いただけるソファを置いています。

市長 家族の皆さんが同席できると患者さんもとても安心ですね。この他に何かありますか。



各世代に配慮した高さが異なる待合室の長いす

竹村 診察室前の看板には全て家庭医療という表示をしています。

市長 これがあるだけで、非常に身近な医療に感じられます。先ほどお話のあった在宅医療の状況はいかがですか。

竹村 現在、病院の病床数は一定であるのに対し、高齢者の人数は増加しています。こうした状況の中で、私たちは病院内だけでなく、積極的に病院外に出て在宅医療を行うことが非常に重要であると考えています。

市長 在宅のまま医療が受けられると、とても安心感がありますし、この取り組みが今後

の調査や研究にも生かされますね。

竹村 単に医療行為だけでなく、健(検)診、受診、入院に対する患者の皆さんの思いや考えを知ることにもなり、それをもとにどのような医療体制を構築していくのかを調査しているところです。また、在宅医療には学生や研修医も同行しますので、教育の場としても生かされています。

市長 若い世代の育成にもつながっているのですね。

さて、一志病院では救急の受け入れも行っていただき、平成24年9月の地域医療学講座設置後は救急患者の受け入れ件数が約30%増えています。さらに、直接、診療時間外に病院へ来られる、いわゆるウォークイン患者の数も約26%増えています。これは、白山・美杉地域はもとより久居や一志地域からも頼りにされているということの証ですね。

竹村 地域医療学講座により地域医療が充実したことの表れだと感じています。また、救急隊員と医師が直接話せるホットラインを設けたことで、疎通性のある救急医療が行われるようになったこともその一因であると思います。

市長 美杉町竹原にある津市国民健康保険竹原診療所でも診療を行っていただいていますね。



竹村 住民と医療機関との距離は非常に大きな影響があり、遠くになればなるほど、時間外の診療や救急車の利用が増えます。そうならないように地域全体の医療をより良いものにするため、一志病院の医師と私たち家庭医療の医師が支援しています。

市長 最後にこれからの家庭医療についてお話しください。

竹村 私たちは、地域住民にとって最も良い地域医療、保健、在宅を含めた福祉を明らかにし、それを学生や研修医に教えていきたいと思っています。また、いろいろな職種の人と一緒に地域医療を支えていくためのノウハウをパッケージにして、他でも生かしていけるよう一志病院での取り組みを津市から全国に広げていけたらと思っています。

市長 実現されることを期待しています。本日はありがとうございました。

竹村 洋典さん

医学博士。昭和57年に早稲田大理工学部から防衛医科大に入学。平成3年にアメリカ・テネシー大で家庭医療レジデントとなり、米国家庭医療学会認定専門医およびフェロー取得。平成22年から三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座家庭医療学分野／医学部附属病院総合診療科・教授。現在、津地域医療学講座の教授を併任。

